（様式１）

令和７年度　学力向上指導改善プラン

学校教育目標	夢に向かって共に生きる児童の育成～学びあいたすけあい　きたえあう子～

目指す子どもの姿	学ぶ意欲を持ち、協働して学びに向かう児童の育成
変容を目指す資質・能力	学びあい、助けあい　きたえあい夢にむかってともに生きる力の育成

三田市立松が丘小学校
学校長　梶京子
研究主体【問いをつなぎ　主体的に学ぶ子どもを目指して】

前年度			継続性	4月（※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を朱字で修正）			2～3月		
							年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価（前年度の成果と次年度に向けた課題等）	評価		学力向上に向けた重点的な目標（変容を目指す資質・能力）	成果となる目標（指標となる数値等）	具体的な行動目標（成果目標達成のための具体的な手立て等）	教員評価	（今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
①「確かな学力」の育成	・授業研究を通して問いをつなぎ、主体的に学ぶ子どもの育成を目指し研修を重ねてきた。地域の多様な人材を積極的に活用し、社会科と食育を中心とした教科横断的な学習を展開した結果、体験的・探究的な活動を通じた確かな学力の向上が見られた。学校評価における高学年の学習理解度は、10%の向上を達成しており、この成果を基盤として、今年度の取り組みを教育課程の中核に位置づけ深化させていく。 ・めあてとふりかえりのサイクルを日常的に実践することで、児童自身が考え言語化する機会を設ける。	A	➡	「確かな学力」の育成	①児童アンケート「話を聞くときは、話している人の方を見て、最後まで聞いていますか。」は、95パーセント、「自分の考えを最後まで伝えていますか？」の項目は、90パーセントが肯定的評価である。どちらも95パーセントをめざす。 ②研究会アンケートにおいて学びの成果に対する肯定評価を得ることができる。 ③質問調査で「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定評価が全国平均を＋3ポイント以上	・一人一授業公開をし、問いをつなぎ主体的に学びに向かう授業の展開を中心にして、対話力を高めていく。 ・日々の授業で、授業形態の効果的な設定の仕方やノートづくり、板書から対話を活性化させる。 ・めあてと振り返りを行い、学習内容の定着を図る。			
②「豊かな心」の育成	・「家族読書の日」を設定し、学校と家庭が連携し児童が読書に親しめる環境づくりに取り組んだ。また、朝会での読書通帳の表彰や本の紹介をするの等啓発により、児童の読書意欲が高まった。しかし、保護者アンケートでは、「すすんで読書に取り組んでいる」と回答した割合が50.6%との評価であり、今後も家庭読書の時間の具体化や読書のメリット等を効果的に伝えていく。継続して家庭と課題を共有しながら読書への積極的な取り組みを進めていく必要がある。・登下校の見守りや学校ボランティアなどを通じて地域の方々と交わす「ふたことあいさつ」が、児童の人とのつながりや豊かな心を育む重要な機会となった。	B	➡	「豊かな心」の育成	①読書習慣を育むため、『家庭読書の日』を設定し、児童・保護者双方の『進んで読書に取り組んでいる』という評価項目の5パーセント向上を目指す。	・学校全体で朝読書の日の設定や「家族読書の日」を活用して読書に親しめるようにする。学年ごとに、読書通帳の達成目標を設定し、読書量の向上を目指す。 ・司書教諭と連携し、国語科のカリキュラムに読書活動を明確に位置づけ、読書の質と量を高める。児童が様々なジャンルの本に触れる機会を増やす。 ・進んで「ふたことあいさつ」をすることが相手にとっても、自分にとっても気分が良くなる体験を重ねることで、自尊感			
③ICT機器の効果的な活用	・全学年においてICT機器を効果的に活用し、学習指導と教育活動の質的向上を図ることができた。全教科の話し合い活動において、ICT機器の特性を最大限に活用、児童の考えを共有し、グループ化や意見の深化を促進することで、より活発で全員参加型の学習空間を創出できた。有効なアプリの導入により、情報の即時共有が可能となり、児童の学習における困難感の軽減と効率的な学習時間の実現につながった。	A	➡	ICT機器の効果的な活用・ICTを最大限活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	①ICT機器を効果的に活用して授業を展開していく。「図形」領域では、特に効果的であると考える。正多角形の学習においては、プログラミングソフトを活用し、指示を適切に出す学習を行う。 「主体的・対話的で深い学びのある授業」を目指して、学習展開を工夫していく。 ②算数の時間だけでなく、総合的な学習の時間など、教科横断的に活用し、プログラミングに慣れ親しむようにする。プログラミング的な思考は、様々な授業場面で論理的な思考を繰り返すことで育成される。「～だから～になる」「～することで～になる」といった思考が	・「図形」領域では、特に効果的であると考える。・友だちの考えや自分の考えを画面で見ることで、共有化でき、グループ化したり、自分の考えを深めることにつなげていく。また、考えの活発な意見の交流ができることをめざす。 ・図形について理解を深めさせるためには、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解し、それを基にして図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。 ・算数以外の教科でもICTを活用することで学習の成果を			
④「健やかな体」の育成	・児童アンケート「進んで運動をしている」の項目で83%であった。今年度は、気温等による運動制限が起因していると考えられる。施設の開放など対策を考えていきたい。 ・体育の時間におけるなわとび活動では、体育環境委員会と連携し、20分休みに児童が跳んだ回数を記録、表彰状を授与することで、達成感を味わわせるとともに、さらなる意欲向上につなげた。次年度も継続して実施し、全児童がなわとびの基本技能を習得できるよう指導を工夫していく。運動の楽しさを実感させながら、体力向上と健康的な生活習慣の確立を目指していきたい。	B	➡	「健やかな体」の育成	①八景中校区の学びのスタンダード・家庭学習の手引きを活用し、学年×10分の家庭学習の定着を9割以上とする。 ②家庭での主体的な学びが授業に活かされ、学校評価における学習理解度の項目が、5%の向上することをめざす。 ③朝ご飯を食べているの学校評価の項目を3%向上をめざす。	・委員会活動でなわとび大会を行ったり、目標を持って運動に継続的に取り組んだりすることで、体を動かすことに親しめる子どもを増やす。手洗い・うがい等。 ・児童の食に関する関心を高めるため、栄養教諭と連携した食を通した授業づくりを継続的に実施する。 ・食育だよりを活用して保護者や児童への啓発を行うとともに、食育の授業研究を通して指導内容や方法の充実を図り、学校全体で体系的な食育を推進していく。			
⑤一人ひとりが大切にされる教育・支援の充実	・児童アンケート「友だちと仲良く遊んでいる」においては100%の肯定評価が得られた。保護者においては90．9%であった。人権教育や特別支援教育を大切にした学校全体の取り組みを行い、教育活動全体を通じて、子どもの社会性を培い、自立心や自律性の育成に努めていきたい。 ・いじめ防止の取り組みとして、市が実施するいじめアンケートに加え、学校独自の『心のアンケート』を作成・実施し、毎月児童の声に耳を傾けている。児童の困りごとの早期発見・早期対応が可能となり、安心して学校生活を送れる環境づくりを心がけた。	A	➡	「一人ひとりが大切にされる教育・支援」の充実	①保護者アンケート「お子さんはクラスの目標に向かって頑張っている」と児童アンケート「授業中や休み時間に楽しく過ごしていますか」の評価向上を5パーセント向上を目指す。また、児童アンケート項目「授業中や、休み時間に楽しく過ごしていますか」について5ポイント上げる。	・児童理解や特別支援教育、「三田市いじめ防止基本方針」に基づく取り組みについての研修を重ね、教育活動全体をを通じて、子供の社会性を培い、自立心や自律性の育成に務める。 ・自己表現できる環境を意図的に設定し、（人権の木　ウェルビーイングの4因子の掲示　終わりの会でのお互いの良いところ見つけ）等自己肯定感を高める機会を充実させる。			
⑥地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりの推進	・『自分の住んでいる地域（校区）が好きだ』という質問に対し、児童アンケートでは98.3%、保護者アンケートでは94.8%であった。コミュニティ・スクールを通じた地域との連携により、放課後学習支援や地域学習の確保など、具体的な協働体制を確立し、開かれた学校づくりの実現に向けて一定の成果を上げることができた。また、八景中学校区との連携においても、校区目標を意識した、授業や合同研修等の交流が活発に行われた。	A	➡	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりの推進	①八景中学校下の小学校でふるさと（校区）を大切に思う心情を育てていきたいと考え、地域の人との結び付きの機会を増やすことを意識する。 ②地域とともに「明日も登校したい学校」作りを進めていき、学校評価での「自分の住んでいる地域が好きだ」の項目を97パーセントを目指す。	・各学年で地域教材や人材を活用した学習を工夫し地域ボランティアしたり、コミュニティースクールの充実をはかるなど、子どもの学びを地域で支える体制をより充実させていく。 ・児童会活動として感謝のつどいを継続するなど様々な場面で、地域を意識する活動に取り組む。また、学校での取り組みを学校だよりや学年・学級通信などから発信する。			

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果
（0～4の5段階評価）の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成　B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分　D・・・ほとんど達成できず